

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害メンタルケア実習を実施しました (2021/8/21)

テーマ：米国版サイコロジカル・ファーストエイド（PFA）

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2021年8月21日（土）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害メンタルケア実習が実施され、プログラム履修生12名（医療従事者、消防職員など）が研修を受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之客員研究員（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

講師に兵庫県こころのケアセンターの大澤智子先生をお招きし、米国版PFAの5つの原理原則、被災者への接し方、解決すべき課題等について学びました。PFAとは、災害やテロの直後に子ども、思春期の人、大人、家族に対して行うことのできる効果の知られた心理的支援の方法を、必要な部分だけ取り出して使えるように構成したものです。介入時の5つの原理原則として「①安全・安心、②落ち着き、③つながり、④自己・地域の効力感（課題に直面したときに実行できる、と感じること）、⑤希望」がとても重要であり、「被災者自身ができることを自らできるように環境調整を行うことが支援者の仕事である」と大澤先生は力説なされました。PFAを作成している団体にはWHOをはじめ50以上の団体があるそうです。今回は、米国国立PTSDセンターなどが作成した米国版のPFAを学びました。WHO版などに比べ、支援者が配慮すべき項目をより具体的に明示した内容となっており、プログラム履修生が被災地支援に入った際にもすぐに活用できる、より実践的な内容のPFAプログラムとなっていました。

今年度も新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、マスク着用に加え、換気システム使用かつ2方向ドア開放での換気、履修生の間隔を広くとる、演習で近接を避けがたいもしくは共用物を使用する際はフェイスシールド着用、頻回の手指消毒の実施など、感染対策に万全の注意を払いつつ研修を運営しました。



兵庫県こころのケアセンター 大澤智子先生



PFAの原理・原則を学ぶ
座学は履修生の間隔を広く取って



被災者心理を考える実践的なグループワークではフェイスシールドを着けて

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）